

令和7年2月3日

保護者様

本宮市立和田小学校長 佐藤 憲博

「教育活動」に関するアンケート調査の結果と来年度の取組について

余寒の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに心より感謝いたします。

さて、昨年末には、「教育活動」に関するアンケート調査へご協力いただきまして、誠にありがとうございました。集計が終わりましたので、その結果をお知らせいたします。

アンケートの結果につきましては、下記の通り、来年度の教育活動に生かすべく努力して参ります。今後とも変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

記

アンケート結果を基にした来年度の取組について

1 「自分の考えを持ち、伝え合う」について

読書に関する取組に課題があります。改めて「読書の意義や効果」を児童一人一人が実感し、主体的に読書に親しめる環境づくりと時間の確保に努めます。

授業においては、ICT機器の活用や自分の考えを書く時間の確保、個別指導の充実を行うことなどを通して、伝え合う力を引き続き育成していきます。

保護者への質問3「授業参観や行事などを通して感じられることとして、子どもたちの参加態度がよい。」の評価が昨年度よりも向上しています。引き続き、児童一人一人が主体的に学習に取り組める授業づくりを推進すると共に、「あいさつや返事、言葉づかい」や「話を聞くときの姿勢・心構え」について継続して全学年が同一歩調で指導できるよう共通理解を図ります。

2 「相手のことを考え、思いやりのある行動をする」について

児童の評価は高い結果ですが、保護者の捉え方、教師の見方に差違が見られます。特に「あいさつ」と「言葉使い」に関しては、課題があります。どのようなあいさつや返事、言葉遣いが適切なものか、日常的な指導に加え、児童一人一人があいさつや言葉遣いについて考える機会を設けると共に、児童の自治的な活動として取り入れる工夫を検討していきます。

児童への質問5「先生方は自分の悩みや相談に答えて、すぐに行動してくれる。」、保護者への質問8「学校は、お子さんの悩みや相談（いじめ対応を含め）に対して、保護者と連絡を密に取りながら、スクールカウンセラーや外部の相談機関なども連携を取りながら組織的に対応をしている。」、問9「学級の子どもたちの人間関係が良好である。」については、100%「あてはまる」の評価でありたいと考えています。そのために来年度も引き続き「おもいやりの木」の実践、月1回の生活アンケートの実施、情報モラル教育の実施、異学年交流の充実等を通してよりよい学級・学校づくりを進めていきます。また、道徳教育・学級活動も充実させていきます。特に学級活動では、折り合いをつける話合いを年3回以上行うようにします。また、引き続き「いじめを許さないメッセージの発信『私の宣言』」の振り返りと宣言の見直しを定期的に行うと共に、教育相談の充実のために、QUテストとの連携、今年度から始めた「SOSの出し方に関する教育の推進」の一環としてのスクールカウンセラー（SC）の活用、ソーシャルスキルトレーニング（SST）を実施していきます。さらに、情報モラル教育やメディアとの付き合い方について考える機会を重点的に設けていきます。

3 「めあてに向かって体をきたえる」について

運動面については、持久走記録会やなわとびコンテストなど、児童一人一人の成長が実感できる方法に変更しました。以前は、高学年になるほど意欲的ではない傾向がありましたが、今年度は高学年の児童も意欲的に取り組むことができました。来年度も、各種記録会での達成目標を設け（例：水泳記録会にて低学年は5m、中学年15m、高学年25m）努力できる工夫を継続していきます。

本校では、就寝時刻、睡眠時間、メディアに接する時間、摂取カロリー、むし歯に課題があります。生活リズムチェックの実施、栄養教諭や歯科衛生士によるTT指導も年2回以上実施も継続しながら、心身ともに健康を増進する取組をするとともに、各家庭にもご協力いただけるよう、親子で学ぶ機会を設けていきます。

4 「社会に開かれた教育課程 キャリア教育の充実とコミュニティースクールの機能の活用」について

和田ならではの体験や取組を学年通信、学校だよりやホームページによる情報発信により「児童一人一人に郷土を大切にすることを育み、地域の一員として地域を支えていく自覚を促していく。」という「意義」について、保護者の皆様への周知がなされるようになってきました。

今後も各種活動の際には、児童にもねらいを明確に理解させると共に、保護者の皆様や地域住民の方々に取組の内容をお知らせする情報発信にも引き続き力を入れていきます。

また、今年度は、キャリア教育の一環として、工場出前講座（今年で2回目）、ライフプランニング出前講座（今年度初）などの新たな取り組みにも挑戦しています。

児童一人一人に和田のコミュニティの担い手としての自覚を育む取組を継続していきます。

学校運営協議会委員の意見（学校関係者評価）

【令和7年1月31日実施】

1 「自分の考えを持ち、伝え合う」について

- 達成度も保護者にも分かりやすいように発信してほしい。

2 「相手のことを考え、思いやりのある行動をする」について

- 子どもは忘れやすいので、いじめについては定期的に指導してほしい。ネットの影響も心配である。
- おもいやりの木は、素晴らしい取組である。
- 出入り口で、低学年に道を譲る高学年の思いやりのある行動が見られたのがよかった。
- よいコミュニケーションの入り口となるので、元気のよいあいさつができることさらによい。

3 「めあてに向かって体をきたえる」について

- ゲームをする時間が長いようで、心配である。

4 「社会に開かれた教育課程 キャリア教育の充実とコミュニティースクールの機能の活用」について

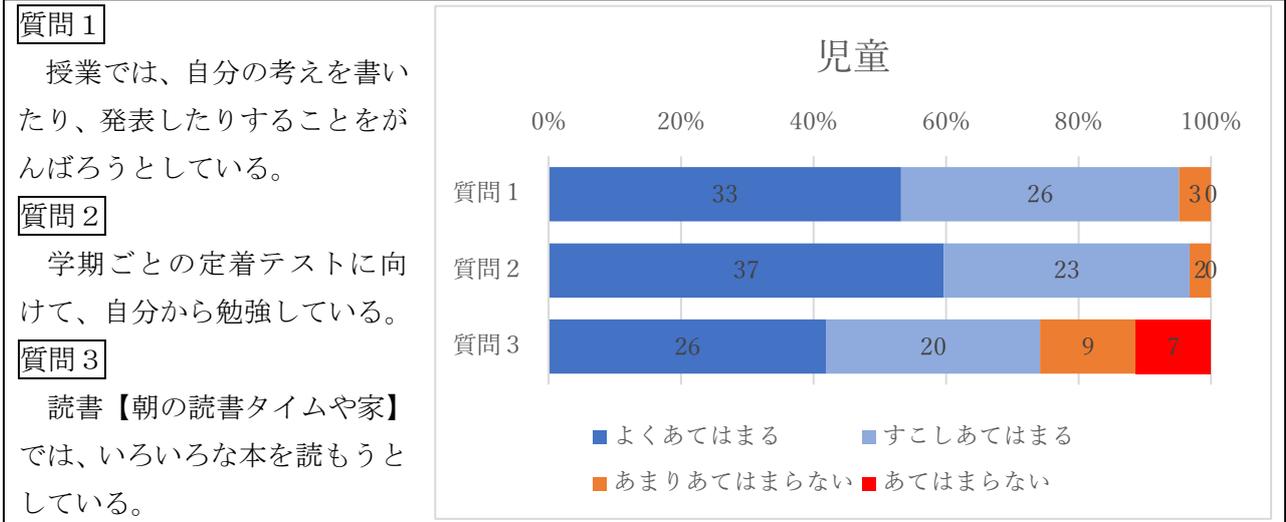
- 企業の出前講座、キャリア教育などは、将来について考える機会となる。道筋を示しながら学びの目標になるとよい。
- 農業体験、企業体験は子ども達の達成感や自信につながる。続けてほしい。

5 その他

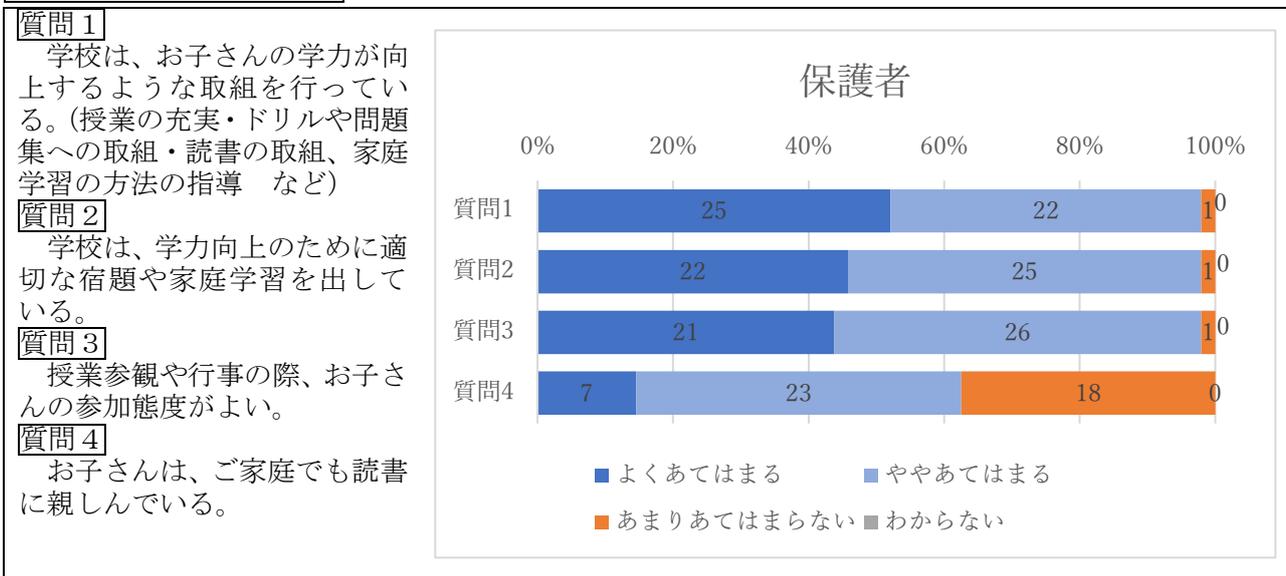
- 子ども達のために教育活動を進めていることがよく分かる。
- 学校運営協議会の熟議の結果が教育活動に反映されているように感じる。
- 学校が困っていることを運営協議会にも伝えてほしい。

1 「自分の考えを持ち、伝え合う」について

児童へのアンケート結果



保護者へのアンケート結果

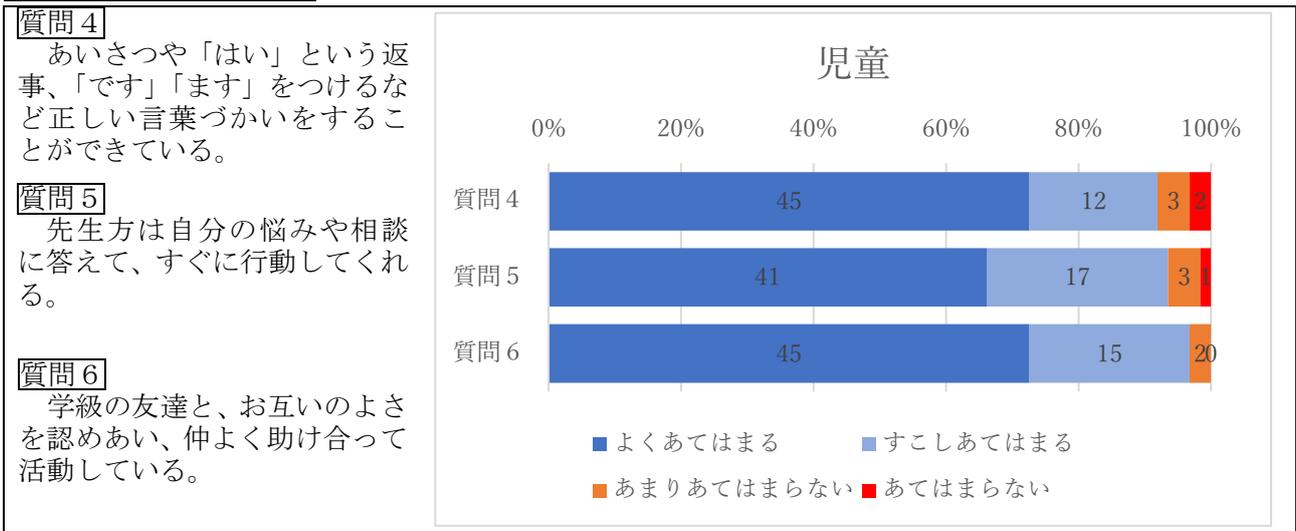


教職員へのアンケート結果から成果 (○) と課題 (△)

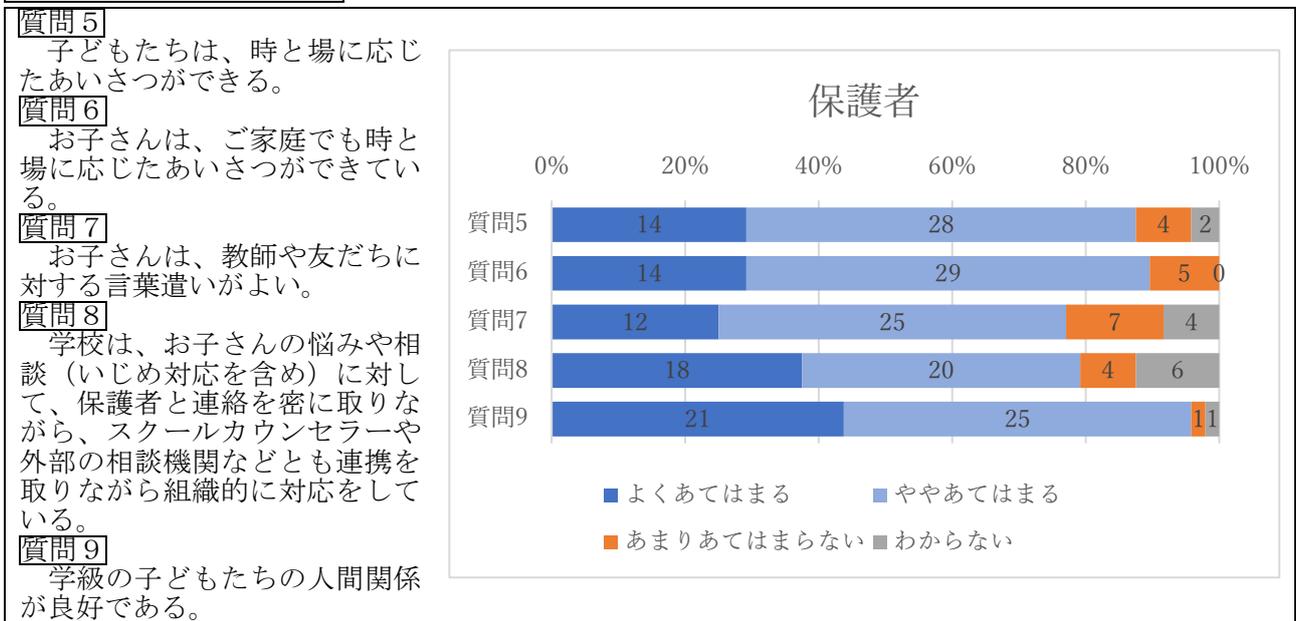
- 必ず自分の考えを書く時間を作り、それを発表させて、違いを考えさせたり、深めたりしてきた。
- キュビナを活用した個別学習の充実を図れた。
- マネジメントシートを活用した家庭学習の計画と振り返りを継続した。
- 学習の習慣化は図ることができた。委員会活動においても、ICT を活用し、自分の考えを発信することを意識して取り組ませることができた。
- ペアやグループなどで話し合いの時間を確保するよう意識してきた。子どもたちも自分の考えを伝える習慣が付き、抵抗感が少なくなった。
- 「ICTの活用」「自分の考えを書く時間の確保」は、ほぼ毎時間実践できた。教科間の連携や整合性をとれるようにしたい
- 週1回必ず本を借りて、家庭学習に繋げた。
- 振り返りの書き方を定着させることができた。ノート1ページ書ける児童、中身もよく振り返って書ける児童がいる。
- △ 学びの変革への本格的な移行の時期にきている。段階的に、変えていく準備をすすめたい。
- △ 高学年の算数の学習内容のさらなる定着を促す必要がある。
- △ 読書の時間をきちんと確保できなかった。全員が定着できなかった。
- △ 読む時間がなくて、読まずに返却する児童もいた。多読賞にまだ到達していない児童が多い。

2 「相手のことを考え、思いやりのある行動をする」について

児童へのアンケート結果



保護者へのアンケート結果



教職員へのアンケート結果から成果 (○) と課題 (△)

- 道徳の授業の中で、自分ごととしてとらえられるように、体験から発言をひき出したり、身近なできごとを取り上げたりして考えさせるようにしてきた。
- 学活、総合、道徳等で情報モラルの指導をした。
- 給食当番(縦割り班)の活動では、誰かに言われなくても、友達の作業を進んで手伝ったり、周りをよく見て、何をすべきか自分で考えて行動したりする姿勢がすべての班で見られた。
- S Cとの連携をすすめ、支援が必要な児童に早期に対応ができた。
- S S Tの指導を継続した。よりよい人間関係、学級づくりができた。学級経営にもよい影響があった。
- S S Tの実践がなされた。学年ブロックで「いつごろ」に「どんなスキル」を身につけさせるかの共通理解が図れるとよい。
- 授業で、児童同士が学び合う時間を確保した。
- 学級会で、建設的な意見を述べる児童が増えた。生活アンケートの実施、賞賛は日々行った。
- 問題解決や考え、議論する時間を確保や、折り合いをつける話し合いを3回以上実施した。
- 良い行動を強く褒めることで子どもたちの意欲、動機付けとなった。
- 交流活動。持久走記録会を通して多くの学年と交流できた。
- 幼小交流。学習発表会の練習の参観を通して交流を行うことができた。
- △ Q Uテストの結果をもっとうまく活用して、よりよい学級経営に努めたい。
- △ 「道徳の礎」を参考に、道徳の授業の進め方の共通理解を図るための校内研修ができるとうよい。
- △ あいさつや言葉遣いに課題がある。時と場面、相手によって適切に判断できるようにする必要を感じる。

3 「めあてに向かって体をきたえる」について

児童へのアンケート結果

質問 7

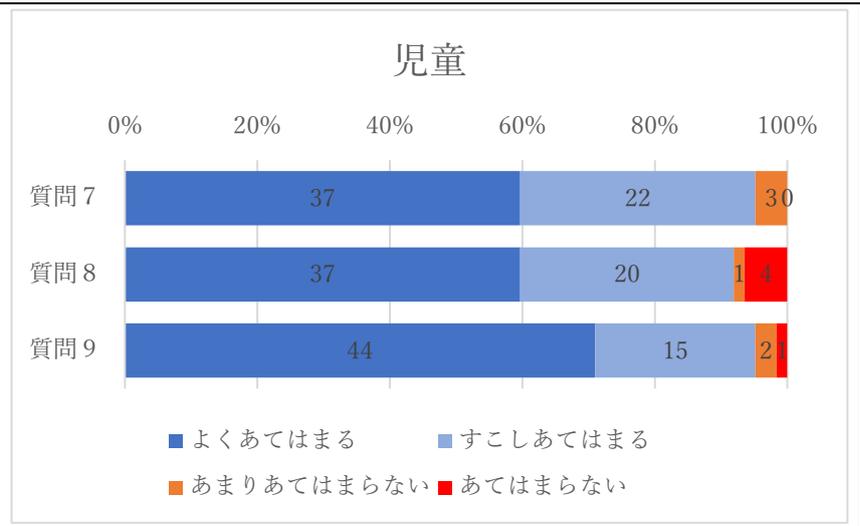
学年の目標達成のために、マラソンカードへの記録や運動身体づくりプログラムやパワーアップタイムにしっかり取り組んでいる。

質問 8

給食では、栄養のバランスや食べ過ぎに気をつけている。好き嫌いなく食べることができるように努力している。

質問 9

歯みがきは、おく歯を中心にいていねいにしている。



保護者へのアンケート結果

質問 10

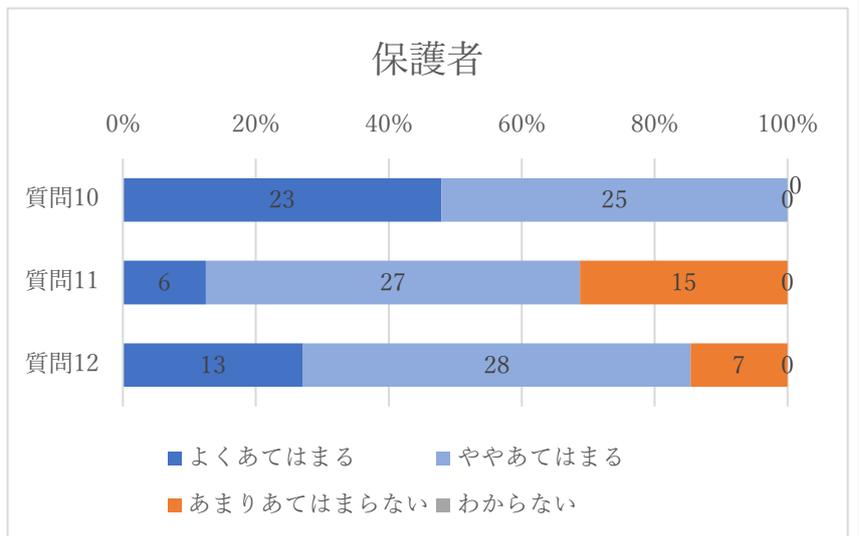
学校は、子どもたちの体力を向上させたり情操を豊かにしたりするために日常的に取り組んでいる。(パワーアップタイム・運動身体づくりプログラム・フルマラソンカード・なわとびカード・陸上・水泳・駅伝 など)

質問 11

お子さんは、ご家庭でも栄養バランスや摂取カロリーを考ながら食事をしている。

質問 12

お子さんは、ご家庭での歯みがきの際にも、奥歯を中心にいていねいな歯みがきをするように心がけている。

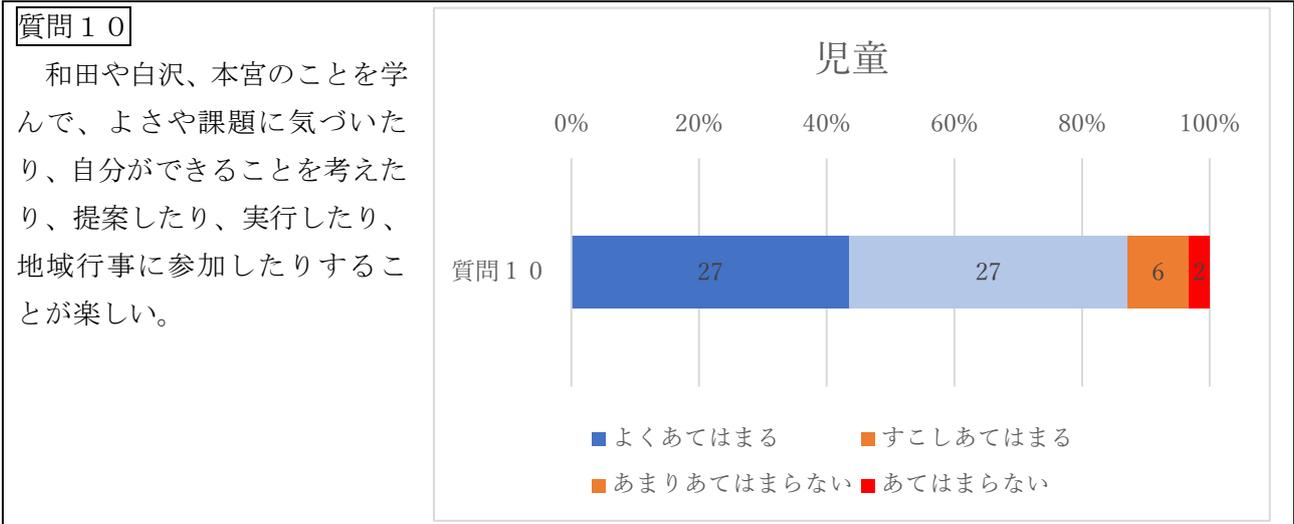


教職員へのアンケート結果から成果 (○) と課題 (△)

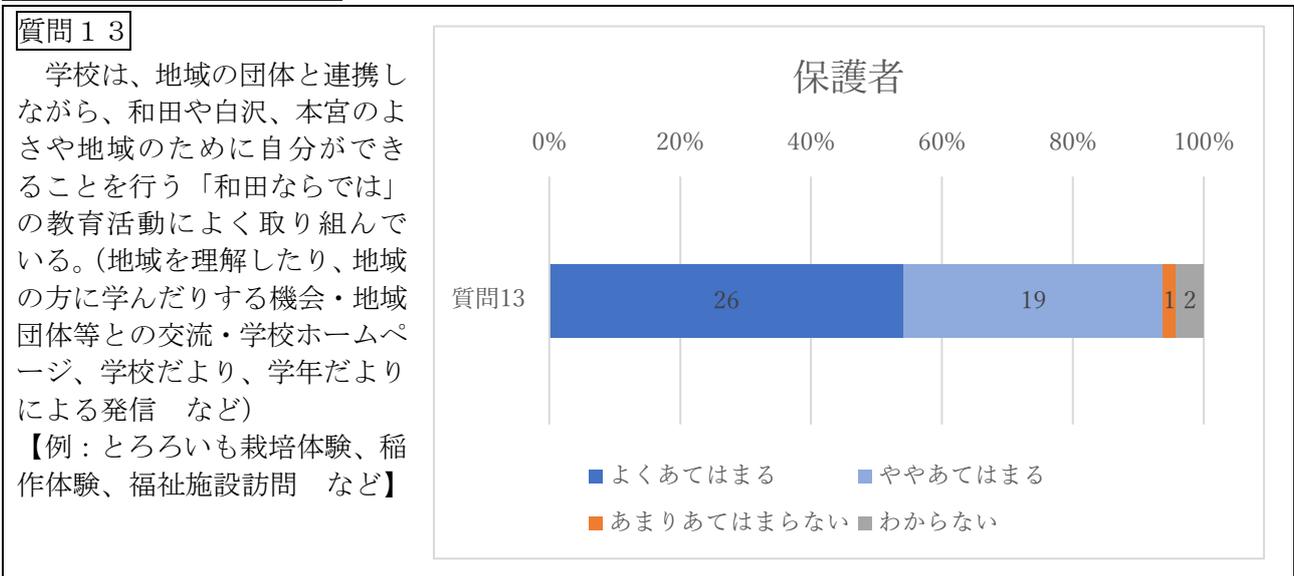
- カードを使ってマラソンなどに目標をもって取り組めた。
- 各種記録会で自身の成長を振り返り、体力の向上に努めることができた。
- よりよい生活習慣の定着が少しずつ図れた。
- 距離による持久走記録会への変更により、自分の目標が明確にもつことができ、より意欲的に練習に取り組んでいた。
- マネジメントシートを活用して、就寝時刻を意識させることができた。
- 運動身体づくりプログラムの時間を十分に確保した。
- 栄養技師、養護教諭とのTT授業を2回実施できた。
- △ 学年便りや自分手帳を活用したが、睡眠習慣の改善が見られなかった。
- △ 各項目の達成率は、就寝が55%、メディアが53%、う歯治療率が33%であり、目標を達成できていない(個別懇談時の調査による)。
- △ 冬休みの生活リズムチェック実施と歯科治療について、保護者へ再度呼びかけ、3学期中の達成を目指す。
- △ メディアや睡眠時間の大切さについては継続して具体的に伝えてきたが、なかなか改善が図られなかった。諦めずに今後も指導が必要。
- △ 特に鉄棒は、なかなか結果が出ず、子どもたちのモチベーションを保つのが難しかった。
- △ 夜更かししてしまう児童もいるので、声かけをしている。
- △ 睡眠習慣の定着40%程度(スポ少により難しい場合がある児童4割、その他2割)
- △ 睡眠習慣がまだ定着していない。家庭との連携が必要。

4 「社会に開かれた教育課程 キャリア教育の充実とコミュニティースクールの機能の活用」について

児童へのアンケート結果



保護者へのアンケート結果



教職員へのアンケート結果から成果 (○) と課題 (△)

- とろろいもづくりを体験できてよかった。
- 3年生は、とろろ芋作りで、大変お世話になった。町たんけん(白沢公民館、しらさわ夢図書館、白沢駐在所、JAふくしま、岩角山岩角寺)で地域との交流
- 社会福祉協議会と連携して、福祉学習の充実を図ることができた。
- 高齢者施設での交流会も充実した内容で、大変有意義だった。
- 児童一人ひとりが地域の方々にお世話になりながら、和田を再確認出来た。米、とろろいもづくりやその他の体験的な学習がここまで充実しているのは和田小ならではのよさだと感じる。児童、教職員、地域の方々にとって無理のない範囲で、ぜひこれからも続けていきたい。
- さつまいもほりでの体験的学習をした
- PTA補導安全委員会と連携し活動した。
- 和田幼稚園と幼小連携プログラムについて詳しく話し合うことができた。
- △ 学習したことを生かせるような場面をもっと増やせるとよい。(介護や支援の実践、職場体験等)
- △ 学校主体で展開できる場所は、今後提案していく必要がある。調べ学習の時間の確保が難しい。
- △ 「何のため？」を児童一人一人にしっかりと認識させること、「取組の発信」の頻度、方法の改善が必要である。